ONKYO®

デジタルサラウンドシステム

HTX-11X

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

はじめに

接続をする

使ってみよう

楽しむ

設定する

その他

※マイコンのリセットについては、41ページをご覧ください。

主な特長

- ■ デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する特許技術VLSC*（Vector（ベクター） Linear（リニア） Shaping（シェーピング） Circuitry（サーキットリィ））回路を搭載（フロントL/R）
- ■ サブウーファー部にオンキヨー独自の低音技術「AERO（エアロ） ACOUSTIC（アコースティック） DRIVE（ドライブ）」を搭載
- ■ 先進のバーチャルサラウンド機能「シアターディメンショナル」
- ■ シアターディメンショナル時にリスニングアングル調整が可能（Narrow（ナロー）/Middle（ミドル）/Wide（ワイド））
- ■ 多彩なリスニングモード
- ■ 夜間などで音量を絞っても小さな音を聴きやすくするレイトナイト機能（ドルビーデジタルソフトにのみ働きます）
- ■ DVDソフトなどに採用されるドルビーデジタル/DTSに対応
- ■ 地上・BSデジタル放送の音声規格AACに対応
- ■ CDやビデオなどのステレオ音声も5.1chサラウンドで楽しめる、ドルビープロロジックⅡに対応
- ■ スリープタイマー機能
- ■ 使いやすい日本語表示リモコンを付属
- ■ オンキヨー製DVDプレーヤーやRIドックの電源オン/オフ、入力の自動切り換え、リモコン操作など、システム連動が可能なRI端子を装備
- ■ ウーファー振動板に強靭な振動板ならではの力強さと、小口径8cmユニットの緻密さを併せ持つ再現性豊かなA-OMFコーンを搭載
- ■ ツィーター振動板にバランスドーム型を採用（フロントスピーカー部）

* VLSCはオンキヨー株式会社の登録商標です。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表わす記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた
間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠警告	誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という内容を表しています。	高温注意 感電注意
⊘記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。	分解禁止 ぬれ手禁止
●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。	電源プラグをコンセントから抜く 必ずする

⚠警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ **通風孔をふさがない、放熱を妨げない**

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。
- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ **水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない**

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。
- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠警告

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

- 本機の通風孔、ダクトから異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

スピーカーは強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

注意

スピーカーを壁に取り付けるときは、壁の材質、また、桟などの位置に注意してください。（ネジの保持強度に大きな差が出ますので、販売店にご相談ください。）

■ 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

⚠注意

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災･感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量に注意する

必ずする

突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。

■ キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。
サランネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

■ 機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

取り扱い上のご注意

■ お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■ テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分～30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

■ 取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

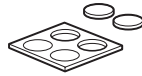
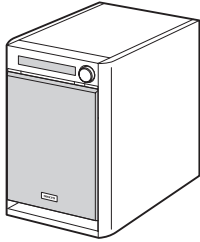
箱を開けたら、まず

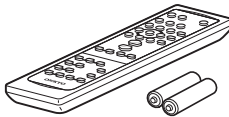
箱の中身を確認する

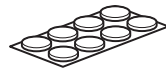
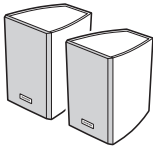
ご使用の前に次のものがそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

- アンプ内蔵サブウーファー（1）（HTX-11XPAW）

- オーディオ用光デジタルケーブル 1.5m（1）

- サブウーファー用コルクスペーサー（1組〈4個〉）

- リモコン（RC-678S）（1）
- 乾電池（単3形）（2）

- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）
- ユーザー登録カード（1）

- サテライトスピーカー（HTX-11XST）（2）
- スピーカーコード（サテライトスピーカー用）3.5m（2）

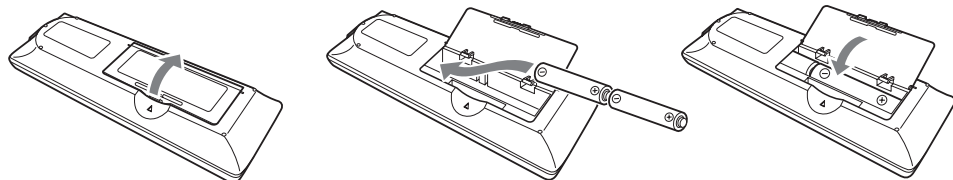
- サテライトスピーカー用コルクスペーサー（1 組〈8 個〉）

音のエチケット

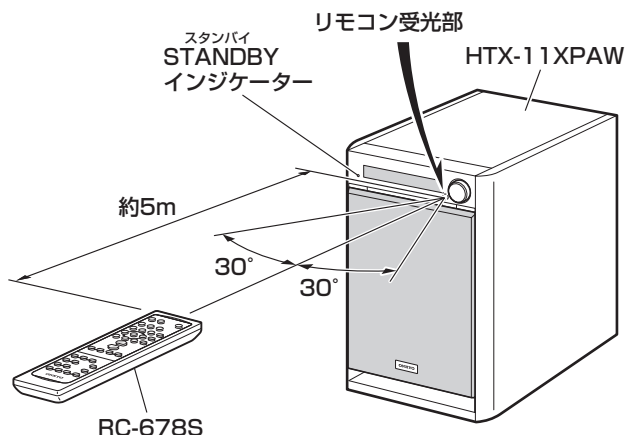
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも
ひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

リモコンの乾電池の入れかたと交換のしかた

① カバーを矢印の方向に持ち上げる。

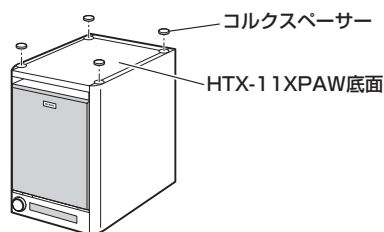
② 中の極性表示にしたがって、付属の電池2個をプラス⊕、マイナス⊖を間違えないように入れる。

③ カバーを戻す。

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池（単3形）と交換してください。
- 電池の極性（⊕、⊖）は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

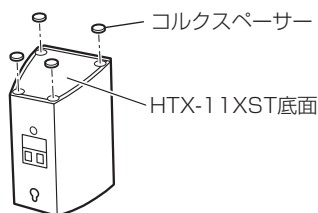
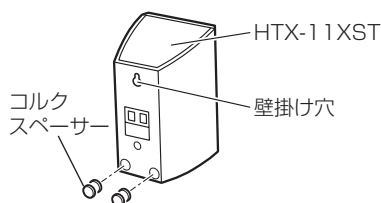
リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光が当たらないようにしてください。リモコンが正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

付属のコルクスペーサーを使う

■ サブウーファー(HTX-11XPAW)用コルクスペーサー

より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

■ サテライトスピーカー(HTX-11XST)用コルクスペーサー

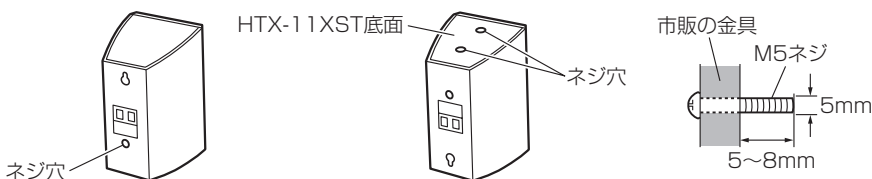
より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

たて置きの場合

壁に掛けて使用する場合

コルクスペーサーは2枚重ねて2ケ所に貼り付けると、安定して設置できます。

ご注意

壁に掛けて使用する場合､壁の強度に十分注意してください。壁はその材質､また桟(さん)などの位置により､ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分注意してください。
壁につけるネジは、頭の直径が4mm以上10mm以下、ネジの直径が4mm以下で、できるだけ太く、長いものをご使用ください。(壁等に取り付ける際は、専門施工業者へ依頼することをおすすめします。取り付けの不備によって損害や事故が発生した場合、当社では一切責任を負うことができませんのでご了承ください。)

■ 市販のスタンドや金具を使って固定するには

市販のスタンドや金具を使用できるように、スピーカーの背面にM5用ネジ穴1個、底面にピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。
スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドや金具の厚みを考慮して有効ネジ長が5～8mmのものをご使用ください。

各部の名前と働き

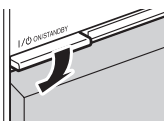
前面パネル

表示部（下記参照）

STANDBY（スタンバイ）インジケーター
スタンバイ状態のときや、リモコンの信号を受信すると点灯します。

ON/STANDBY（オン／スタンバイ）ボタン
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

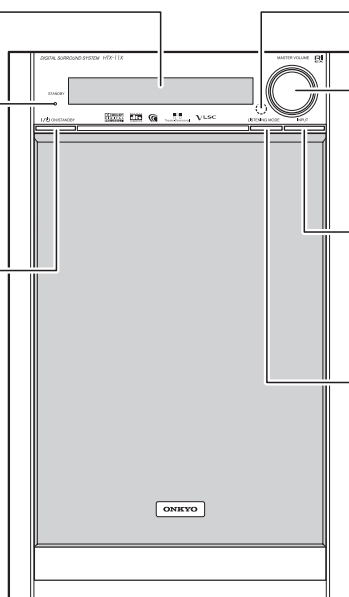
ボタンを操作するときは
上から下へ押すようにしてください。

I/⏻ ON/STANDBY

リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

MASTER VOLUME（マスター ボリューム）ツマミ
音量を調整します。

INPUT（インプット）ボタン
入力を切り換えます。

LISTENING MODE（リスニング モード）ボタン
リスニングモードを切り換えます。

DIGITAL SURROUND SYSTEM HTX-11X
STANDBY
MASTER VOLUME
LISTENING MODE
INPUT
ONKYO

表示部

リスニングモード／デジタル入力フォーマットインジケーター
入力されている信号の種類およびリスニングモードを表示します。

MUTING（ミューティング）インジケーター
ミューティング（消音機能）が働いているときに点滅します。

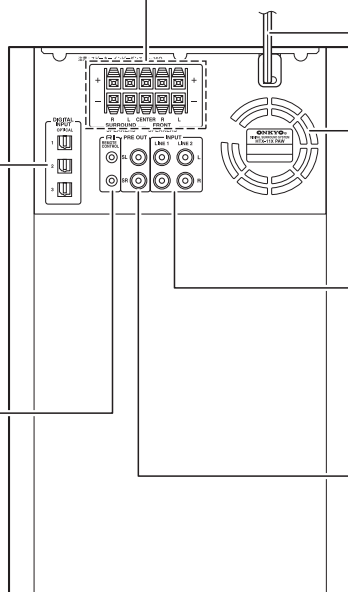
SLEEP（スリープ）インジケーター
スリープタイマーが働いているときに点灯します。

多目的表示部
再生モード、設定内容などを表示します。

後面パネル

SPEAKERS端子 (FRONT/SURROUND/CENTER)
左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカー、センタースピーカーを接続する端子です。

DIGITAL INPUT (OPTICAL) 1/2/3端子
オーディオ用光デジタルケーブル※で、DVDプレーヤーやBS/地上デジタル対応機器などの光デジタル出力端子と接続します。
※本機に付属しています。

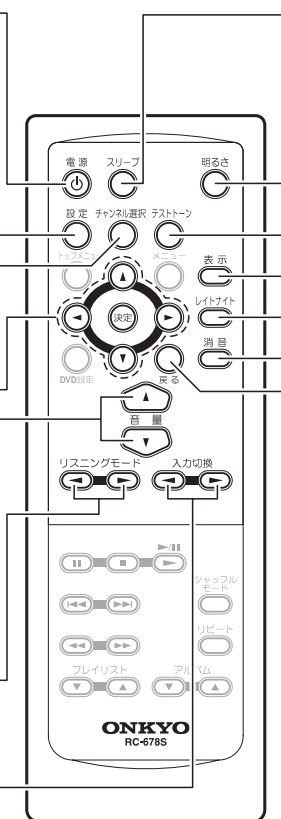
RI端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させるための端子です。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

電源コード

放熱用ファン
本体内部の温度が上昇した時に、ファンが回ります。

INPUT(LINE 1/2)端子
オーディオ用ピンコードで、ビデオデッキなどのライン出力端子（アナログ）と接続します。

PRE OUT(SL/SR)端子
将来の拡張用左右サラウンド信号出力端子です。

リモコン(RC-678S)

● 本機を操作するときのボタン

スピーカーを接続する

接続の前に

付属のスピーカーコードの準備をします。

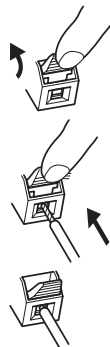
① **スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。**

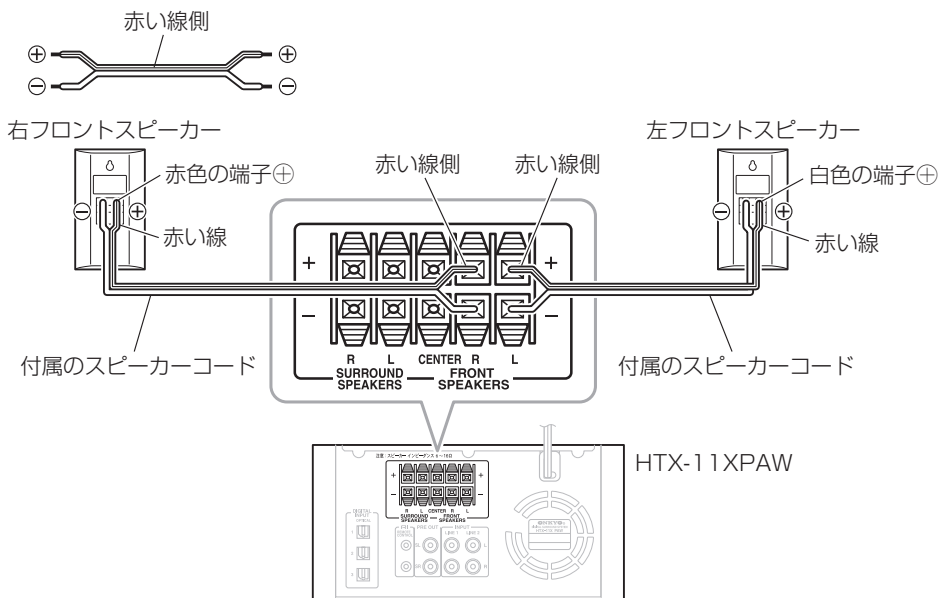
② **しん線をよじります。**

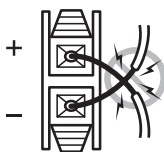
スピーカー端子への接続方法

① **レバーを押します。**

② **しん線を穴の中に入れます。**

③ **レバーを離します。**

スピーカーの接続

付属のスピーカー（HTX-11XST）を接続します。ここでは、スピーカーを左右フロントスピーカーとして使用する場合の接続方法を説明します。スピーカーのプラス ⊕ と本機のプラス ⊕、スピーカーのマイナス ⊖ と本機のマイナス ⊖ を接続します。付属のスピーカーコードの赤い線がある方をプラス ⊕ 側に接続してください。

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

ホームシアターを楽しもう

センタースピーカーやサラウンドスピーカーを追加してホームシアターを楽しみましょう。本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。再生する信号や、接続するスピーカーの数によって、DTS やドルビーデジタル再生、オンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。

本機と接続するスピーカーの使いかた

付属のスピーカー（HTX-11XST）のみの場合：
左右フロントスピーカーとして使用します。（2.1チャンネル再生）

HTX-11XSTを含めて3つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。（3.1チャンネルサラウンド）

HTX-11XSTを含めて5つお持ちの場合：
左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。（5.1チャンネルサラウンド）
HTX-11XSTを左右サラウンドスピーカーとして使用してもかまいません。

右の図のように、すべてのスピーカーを接続すると最も理想的なサラウンド効果を得ることができます。しかし、センタースピーカーやサラウンドスピーカーがないときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから出力される音声を他のスピーカーに最適に配分し、現在のスピーカー構成で可能なサラウンド効果を最大に引き出します。

左右フロントスピーカー

総合的に音声を出力します。ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。視聴位置の前方に配置します。音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対象が理想です。

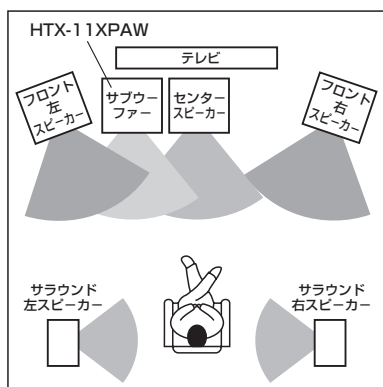
センタースピーカー（本機には付属していません）

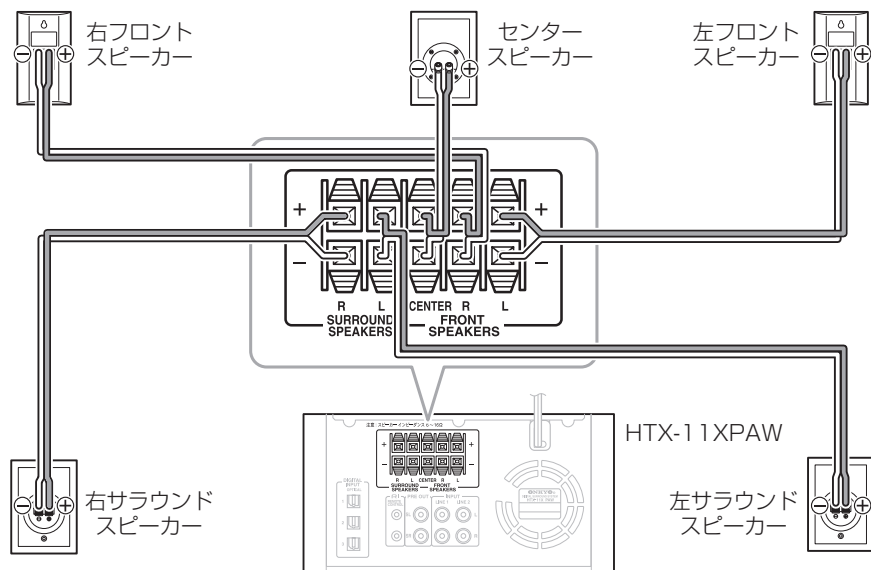
左右フロントスピーカーの音響効果や音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画ではとくにセリフが出力されます。できるだけ画面の近くで、視聴者の耳に向くように配置してください。左右フロントスピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。

左右サラウンドスピーカー（本機には付属していません）

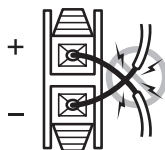
臨場感を高める役割を果たします。効果音などで音の立体的な動きを表現します。視聴位置の横または後斜めに配置します。左右対象で視聴者の耳より１m高い位置が理想です。

サブウーファー（HTX-11XPAW）

低音のみを出力し、迫力ある重低音効果を最大限に発揮します。

スピーカーを接続する

使用されるスピーカーの数によって、接続する端子を選んでください。
組み合わせるスピーカーは6Ω以上のものをご使用ください。スピーカーのプラス⊕と本機のプラス⊕、スピーカーのマイナス⊖と本機のマイナス⊖を接続します。

ご注意

プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

危険

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線どうしを絶対に接触させないでください。
また、リアパネルにも触れないように、ご注意ください。

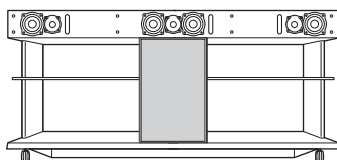
- 電源を入れたらまず、接続したスピーカーのチャンネル数を設定してください。(☞23ページ)
- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が同時に視聴位置に届くように視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。(☞35、37ページ)

!ヒント

別売りの3chスピーカー内蔵TVラック CB-SP1200XTなどを組み合わせてお使いになる場合

左右フロントスピーカー、センタースピーカーの3つのスピーカーをTVラックに内蔵していますので、本機に付属しているスピーカーを左右サラウンドスピーカーとしてお使いいただくことができます。
接続に関しての詳細は、TVラックの取扱説明書をご覧ください。

別売りの3chスピーカー内蔵TVラック

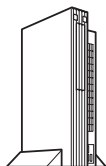
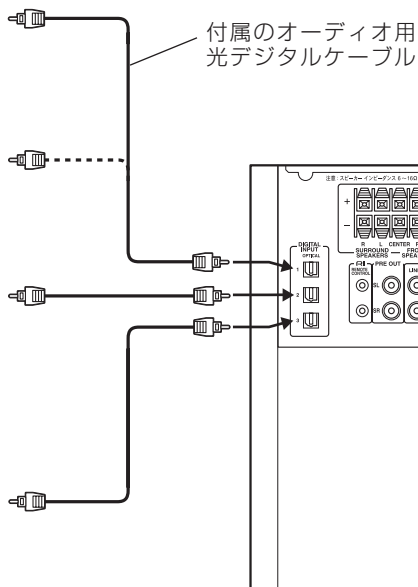
本機を収納する専用 BOX も装備していますので、すっきりと美しく、本格的なホームシアターをお楽しみいただけます。

- イラスト例は、CB-SP1200XT です。

AV機器やゲーム機を接続する

- DVDプレーヤーなどでドルビーデジタル、DTSサラウンド信号を再生するためには、DIGITAL INPUT（OPTICAL）端子への接続が必要です。
- パソコンでデジタルサラウンドを楽しむには、デジタル出力（オプティカル）に対応したパソコンや音源ボードが必要です。お手持ちの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

デジタル音声機器の接続をする

DVDプレーヤーやDVDレコーダー、地上、BS、110度CSなどデジタル放送対応チューナー、ゲーム機、パソコンなどのデジタル音声出力端子（オプティカル）と本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子を付属のオーディオ用光デジタルケーブルで接続します。接続した機器の音声がデジタルでサラウンド再生されます。
本機では音声接続のみです。映像接続は映像機器から直接テレビに接続してください。
本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子は3つありますので、3種類の機器が接続できます。
DIGITAL INPUT（OPTICAL）端子1、2、3による性能の違いはありません。どこに接続しても同じです。
ただし、オンキヨー製DVDプレーヤーをRI接続する場合は、必ずDIGITAL INPUT OPTICAL 1端子に接続してください。

！ヒント

- オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
- 接続する機器のデジタル音声出力設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によってはドルビーデジタル信号やDTS信号の出力設定が「オフ」になっていることがあります。
- 本機のDIGITAL INPUT1/2/3端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにしてオーディオ用光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意　オーディオ用光デジタルケーブルは、まっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

アナログ音声機器の接続をする

テレビやビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機の INPUT（LINE 1/2）端子を市販のオーディオ用ピンコードで接続します。接続した機器の音声がアナログでサラウンド再生されます。

オンキヨー製RIドックをRI接続する場合は、必ずLINE 2端子に接続してください。

ビデオデッキ

DVDプレーヤー

テレビ

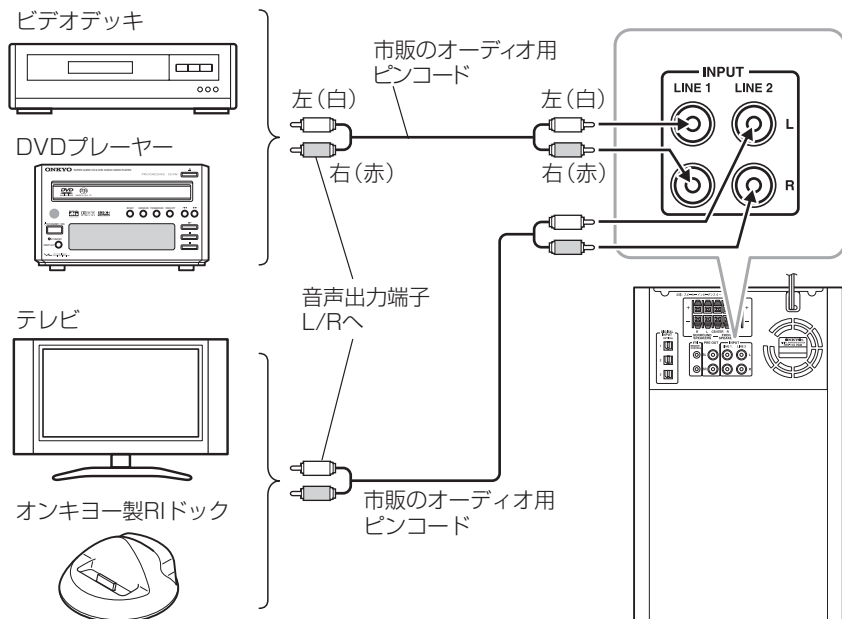
オンキヨー製RIドック

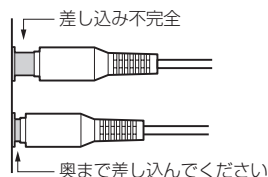
市販のオーディオ用ピンコード

左（白）

右（赤）

音声出力端子L/Rへ

INPUT LINE 1 LINE 2 L R

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

！ヒント

本機のINPUT（LINE 1/2）端子のどちらに接続してもかまいませんが、本機では入力を切り換えたときに、LINE1は「LINE1 VIDEO」または「LINE1 DVD」、LINE2は「LINE2 DOCK」または「LINE2 TV」と表示されます。接続する機器に合わせて端子を選び、入力表示の設定をおすすめします。（☞22ページ参照）

システム機能について

RI機能のあるオンキヨー製品を本機にRIケーブル、オーディオ用ピンコードで接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。

オートパワーオン

本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を入、切すると接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ

本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作

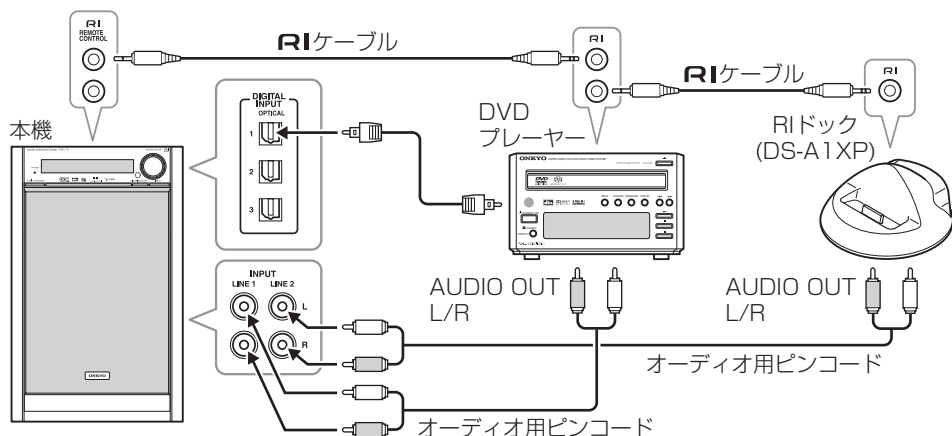
本機に付属のリモコンでDVDプレーヤーやRIドックに乗せたHDD機器を操作することができます。接続については下記を、設定のしかたについては22ページを、操作できる機能については19ページをご覧ください。

■ RIケーブルの接続

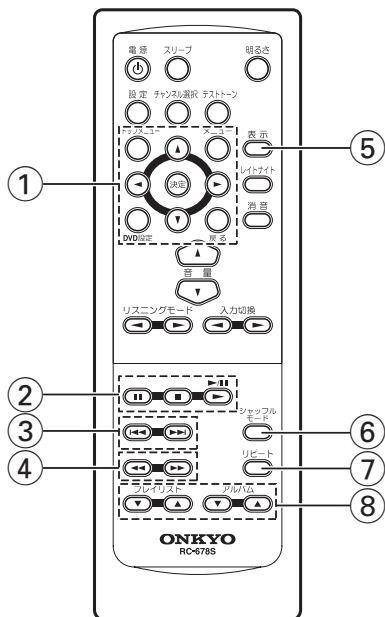
RI端子付きオンキヨー製品でシステムアップした場合、システム機能を使うことができます。(本機にはRIケーブルは付属していません。各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。)

- 操作は本機に付属のリモコンを使用します。HTX-11X PAWのリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。

ご注意

RIドックを接続するときは、LINE(ライン)2の入力表示を必ず「LINE(ライン)2 DOCK(ドック)」にしてください。(☞22ページ)
お買い上げ時の設定は「LINE2 DOCK」になっています。

- RI端子はRI端子付き製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。
- 接続が正しくないと各機能は働きません。上記を参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

AV機器やゲーム機を接続する

オンキヨー製DVDプレーヤーやRIドックを接続すると、下記のリモコン操作ができます。
● 機器の接続については16、17ページを、RI接続については前ページを、入力表示については22ページをご覧ください。所定の接続や設定をしないと、下記の操作はできません。

例：⑤の表示ボタンの場合
- 入力を「DIGITAL1 DVD」や「LINE1 DVD」に切り換えたとき、DVDプレーヤーのDISPLAY（ディスプレイ）ボタンとして働きます。
- 入力を「LINE2 DOCK」に切り換えたとき、iPodのバックライトを30秒間点灯させます。

ご注意
- 空欄はボタンを押しても動作しません。
- 第3世代iPodの場合、►/II、|◄◄/►►|、◄◄/►►ボタンのみ働きます。
- iPodのファームウェアのバージョンアップ等により、操作できる機能の範囲や内容が変更になることがあります。
- それぞれのボタンの働きについての詳細は、各機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 入力が「DIGITAL1 DVD」、「LINE1 DVD」、「LINE2 DOCK」のときは、スタンバイ時に►（プレイ）ボタンを押すと本機の電源が入り、接続している機器の再生が自動的に始まります。

	接続端子	DIGITAL INPUT OPTICAL1	INPUT LINE2
	入力名称 / リモコンのボタン名	DIGITAL1 DVD または LINE1 DVD	LINE2 DOCK
①*	トップメニュー	TOP MENU	
	メニュー	MENU	MENU
	▲/▼	▲/▼	▲/▼
	◄/►	◄/►	
	決定	ENTER	SELECT
	DVD設定	SETUPまたはDVD SETUP	
	戻る	RETURN	
②	II	II	
	►（►/II）	►	►/II
	■	■	
③	|◄◄/►►|	|◄◄/►►|	|◄◄/►►|
④	◄◄/►►	◄◄/►►	◄◄/►►
⑤	表示	DISPLAY	BACKLIGHT
⑥	シャッフルモード	PLAY MODE	SHUFFLE
⑦	リピート	リピート	REPEAT
⑧	プレイリスト▲/▼		PLAYLIST▲/▼
	アルバム▲/▼		ALBUM▲/▼

＊ 設定、チャンネル選択、テスト音の操作中は、▲/▼/◄/►/決定/戻るボタンはHTX-11XPAWを操作するボタンとして働きます。このとき、トップメニュー /メニュー /DVD設定ボタンは働きません。

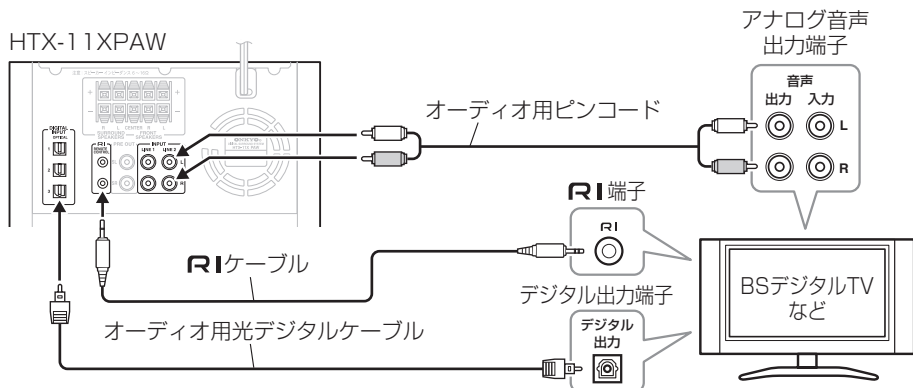
RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると、次のような動作が可能になります。
入力を「DIGITAL3 TV」または「LINE2 TV」へ切り換えるとテレビの音が消え、HTX-11XとHTX-11Xに接続されたスピーカーから音が出ます。

- テレビに付属のリモコンでHTX-11Xの音量調整、ミューティング（消音）を操作することができます。
- HTX-11Xをスタンバイ状態にすると、テレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）を操作できるようになります。

> 連動動作可能なテレビかどうかについては、テレビのカタログや取扱説明書で、テレビにRIオーディオコントロール端子が装備されていることをご確認ください。本機にRIケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

1. テレビのデジタル音声出力端子をオーディオ用光デジタルケーブルでHTX-11XPAWのDIGITAL INPUTOPTICAL 3端子に接続します。
2. テレビのアナログ音声出力端子をオーディオ用ピンコードでHTX-11XPAWのINPUT LINE 2端子に接続します。
3. RI端子どうしをRIケーブルで接続します。
   他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしをつないでください。
   RI端子が2つある製品の場合、2つの端子の働きは同じですのでどちらにでもつなげます。

設定のしかた

22ページを参照して設定を行ってください。

1. HTX-11XPAWの電源を入れる。
2. HTX-11XPAWのINPUTボタンを（くり返し）押し、「LINE2 DOCK」を表示させる。
3. INPUTボタンを押し続け（約3秒）、「LINE2 TV」と表示されたら指を離す。

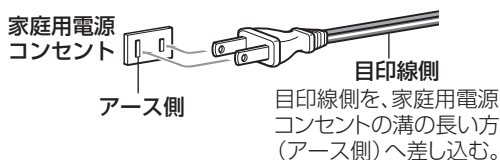
ご使用上の注意

テレビを連動させる場合、LINE 2端子の接続も必要ですが、入力は「DIGITAL3 TV」をご使用ください。「LINE2 TV」でもご使用いただけますが、アナログ接続のため、リスニングモードのAAC 5.1chなどの再生ができません。

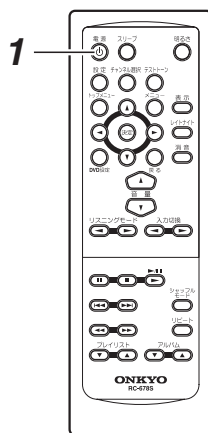
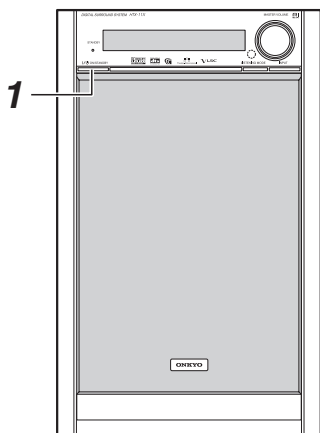
電源を入れる

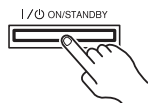
電源コードを接続する

すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに接続してください。

本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合がありますのでコンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

より良い音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に目印線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

電源を入れる

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体前面パネルのON（オン）/STANDBY（スタンバイ）ボタンまたはリモコンの電源ボタンを押す

STANDBY（スタンバイ）インジケーターが消え、表示部が点灯します。

入力表示を変更する

入力表示の「LINE1 VIDEO」を「LINE1 DVD」に、「LINE2 DOCK」を「LINE2 TV」に変更することができます。

次の場合はシステム動作を正しく行うために、必ず入力表示を合わせてください。

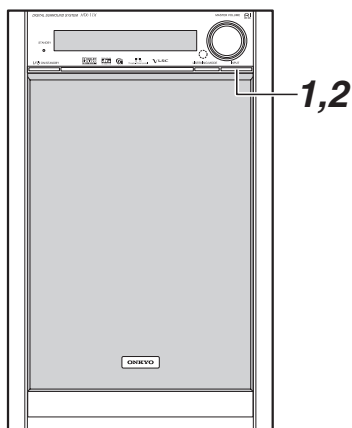
オンキヨー製DVDプレーヤーをLINE1端子に接続している場合：

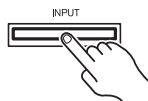
➡「LINE1 VIDEO」を「LINE1 DVD」に変更

オンキヨー製RIドックをLINE 2端子に接続している場合：

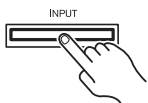
➡「LINE2 DOCK」の表示になっていることを確認

RIオーディオコントロール端子付きテレビをLINE 2端子に接続している場合：

➡「LINE2 DOCK」を「LINE2 TV」に変更

● **例：「LINE1 VIDEO」から「LINE1 DVD」に入力表示を変更する場合**

1

HTX-11XPAWのINPUTボタンを押し、変更したい入力を表示させる

LINE1 VIDEO 25

2

INPUT

INPUTボタンを押し続ける

表示が「LINE1 DVD」に変わります。

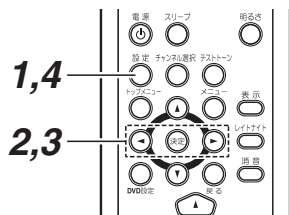
LINE1 DVD 25

表示が「LINE1 DVD」に変わったらINPUTボタンから指を離します。

● 元の表示に戻す場合やLINE2の表示を変更する場合も同様の操作をします。

スピーカーのチャンネル数を設定する

本機に接続したスピーカーの構成にあわせて、再生するスピーカーのチャンネル数を設定します。
スピーカーの本数や設置については、14ページ「本機と接続するスピーカーの使いかた」をご参照ください。

1

リモコンの設定ボタンを押す

表示部に、スピーカー設定の表示が出ます。

```
1.Speaker Setup
```

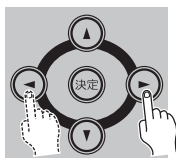
2

リモコンの決定ボタンを押す

表示部に、再生するスピーカーのチャンネル数が表示されます。

```
Speaker     :2.1ch
```

お買い上げ時には 2.1ch が選択されています。

3

リモコンの◀/▶ボタンを押して、スピーカーのチャンネル数を設定する

```
Speaker     :5.1ch
```

2.1ch、3.1ch、5.1ch から選択できます。

！ヒント

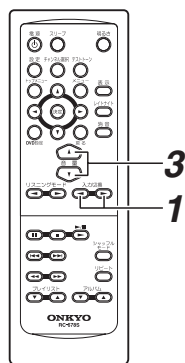
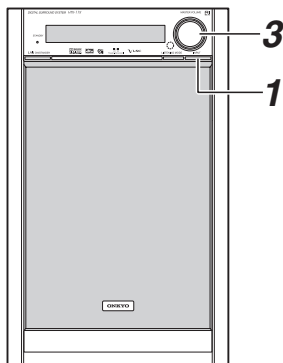
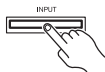
「.1」は本機に内蔵されているサブウーファーを表します。
外部に接続するスピーカーは、それぞれ 2 本、3 本、5 本となります。

4

リモコンの設定ボタンを押し、元の表示に戻す

機器を選んで再生する

リモコンのボタンは　　　　で表示しています。

1

本体のINPUTボタンまたはリモコンの入力切換◀/▶ボタンを（くり返し）押して、入力を選ぶ

DIGITAL1 DVD 25

DIGITAL1 DVD　：DIGITAL INPUT 1端子に接続された機器
DIGITAL2　：DIGITAL INPUT 2端子に接続された機器
DIGITAL3 TV　：DIGITAL INPUT 3端子に接続された機器
LINE1 VIDEO（またはLINE1 DVD*）　：INPUT LINE 1端子に接続された機器
LINE2 DOCK（またはLINE2 TV*）　：INPUT LINE 2端子に接続された機器

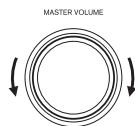
* 入力表示の設定方法については、22ページをご覧ください。

！ヒント

RI接続をしているとき、入力はデジタル接続の「DIGITAL1 DVD」や「DIGITAL3 TV」を選んでください。アナログ接続の「LINE1 DVD」や「LINE2 TV」でお聞きいただくこともできますが、ドルビーデジタルなどの5.1ch再生ができません。

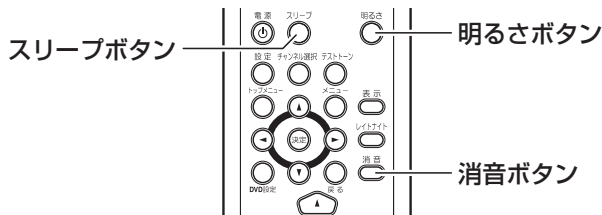
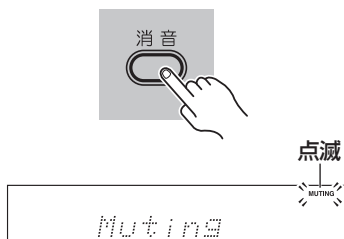
2

選んだ機器の再生を始める

3

本体のMASTER VOLUMEツマミまたはリモコンの音量▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は0･1･2……78･79･maxまでの範囲で調整できます。

！ヒント　音が出ないとき

- **接続を確認する：** 選んだ入力とは異なる端子に接続されている場合があります。上記の手順で入力を切り換え、順番に再生して音が出るかを確認してください。
- **音量を確認する：** 部屋の大きさなどにもよりますが、音量の数値は通常30〜45でお楽しみいただけます。音量が小さすぎないか、本体の表示部で音量の数値を確認してください。

一時的に音量を小さくする

リモコンの消音ボタンを押す

表示部に約3秒間「Muting（ミューティング）」と表示され、音量がごく小さくなります。消音機能が働いている間、MUTINGインジケーターが点滅します。

解除するには…

もう一度消音ボタンを押してください。
MUTINGインジケーターが消え、元の音量に戻ります。

音量調整をしたり、本機をスタンバイ状態にしたときも解除されます。

表示部の明るさを変える

リモコンの明るさボタンを押す

押すたびに表示部の明るさが3段階に切り換わります。

→ ふつう → やや暗い → 暗い

スリープタイマーを使う

リモコンのスリープボタンを押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になる設定になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー動作中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

残り時間を確かめるには

スリープタイマー動作中にスリープボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。
ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びスリープボタンを押すとスリープタイマーは解除されます。

スリープタイマーを解除するには

SLEEPインジケーターが消えるまでくり返しスリープボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

リスニングモードについて

本機のサラウンド再生によって、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためには、スピーカーの設定を行う必要があります。(☞34～37ページ) 本機には以下のリスニングモードがあります。

Stereo（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono（モノ）

モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Theater-Dimensional（T-D）（シアター ディメンショナル）

前方のスピーカーのみで、あたかも5.1チャンネル再生しているかのようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。

Dolby D（ドルビー デジタル） / **DTS** / **MPEG-2 AAC**（エムペグ）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITALは、DOLBY DIGITALマーク、DTSはdts DIGITAL SURROUNDマークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。AACは、地上、BS、110度CSなどのデジタル放送で採用されている音声フォーマットです。この方式のソースの再生時に楽しむことができます。

PL II Movie（ムービー） / **PL II Music**（ミュージック） / **PL II Game**（ゲーム）

ドルビープロロジックIIの各モードです。
映画に適したMovie（ムービー）モードと音楽再生に適したMusic（ミュージック）モード、ゲームに適したGame（ゲーム）モードの3つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。Gameモードでは、ドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。DOLBY PRO LOGIC IIは、DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、ゲームソフトまたは一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードは CDなどのステレオ音楽やライブを記録したDVDにも適しています。

オンキヨー独自のリスニングドモード（DSP）

Orchestra（オーケストラ）

クラッシックやオペラに適したモード。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged（アンプラグド）

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモード。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio-Mix（スタジオ ミックス）

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモード。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic（ティーヴィーロジック）

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモード。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

All Ch St（オール チャンネル ステレオ）

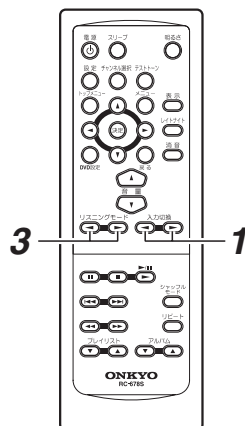
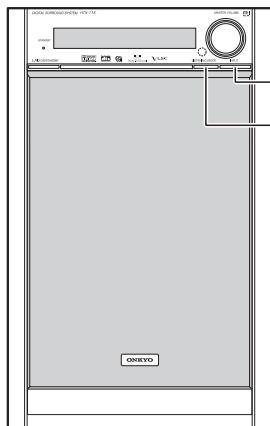
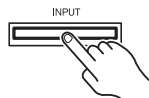
BGMとして音楽をかける時に便利なモード。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono（フル モノ）

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聞くことができます。

リスニングモードを使う

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

本体のINPUT（インプット）ボタンまたはリモコンの入力切換◀/▶ボタンを（くり返し）押し、再生したい機器を選ぶ

表示部に選んだ入力とリスニングモードが表示されます。

`LINE1 VIDEO 25`

2

選んだ機器を再生する

3

本体のLISTENING（リスニング） MODE（モード）ボタンまたはリモコンのリスニングモード◀/▶ボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

ボタンを押すたびに、モードが切り換わります。選べるモードは入力信号の種類によって異なります。次ページの表をご覧ください。

`L1 Studio-Mix`

入力される信号に対応するリスニングモード

スピーカーのチャンネル数*1	入力信号の種類と主なソース ＼ リスニングモード*2	PCMまたはアナログ	Dolby Digital（ドルビーデジタル）				DTS		AAC			
			3/2.1 2/2.1	2/0	1/0,1＋1	その他	3/2.1 2/2.1	2/0	3/2.1 2/2.1	2/0	1/0,1＋1	その他
		CD ビデオ ラジオ テレビなど	DVD、ビデオなど				DVD、ビデオ CDなど		地上/BS110°/CS デジタル放送			
本機に、左右フロントスピーカーを組み合わせた構成では、以下のリスニングモードをお楽しみいただけます。												
2.1ch 3.1ch 5.1ch	Stereo（ステレオ）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Mono（モノ）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
本機に、左右フロントスピーカー、センタースピーカーを組み合わせた構成では、さらに以下のリスニングモードをお楽しみいただけます。												
3.1ch 5.1ch	Dolby Digital（ドルビーデジタル）		●			●						
	DTS						●					
	AAC								●			●
	PL II Movie（プロロジックIIムービー）	●		●				●		●		
	PL II Music（プロロジックIIミュージック）	●		●				●		●		
	PL II Game（プロロジックIIゲーム）	●		●				●		●		
	All Ch Stereo（オールチャンネルステレオ）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Full Mono（フルモノ）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
本機に、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーを組み合わせた構成では、さらに以下のリスニングモードをお楽しみいただけます。												
5.1ch	Orchestra（オーケストラ）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Unplugged（アンプラグド）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Studio-Mix（スタジオミックス）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	TV Logic（ティーヴィーロジック）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*1 設定したスピーカーのチャンネル数を確認してください。（☞23ページ）

*2 サンプリング周波数が、64、82、96kHzの場合、Stereo（ステレオ）以外のリスニングモードでは各々32、44.1、48kHzとして処理されます。

- 再生するソースがAM放送やTVなどでモノラル音源のときに、リスニングモードをPL II Movie、PL II MusicまたはPL II Gameにすると、センタースピーカーに再生音が集中することがあります。モノラル音源でサラウンド効果を得るには、他のサラウンドモードでお楽しみください。

DTS についてのご注意

- DTS信号のCDやLDをLINE INPUT端子のみに接続してアナログ再生すると、DTS信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、本機やスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTS信号のCDやLDを再生するときは再生機器の出力端子を本機のDIGITAL INPUT 端子に接続し、DIGITAL（デジタル）で再生してください。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデータに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデータとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS信号のディスクを再生している時にプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

表示を確認する

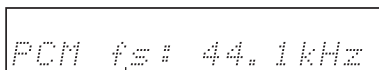
入力表示の場合

表示ボタンを3秒以上押し続けると、リスニングモード表示に切り換わります。
デジタル信号の場合は、信号の情報を約3秒間表示したあと元の表示に戻ります。信号の情報を表示している間(約3秒間)に表示ボタンを押すと、リスニングモード表示になります。

リスニングモード表示の場合

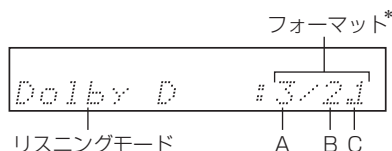
表示ボタンを3秒以上押し続けると、入力表示に切り換わります。
デジタル信号の場合は、信号の情報を約3秒間表示したあと元の表示に戻ります。信号の情報を表示している間(約3秒間)に表示ボタンを押すと、入力表示になります。

■ デジタル信号の情報について

音声信号が PCM の時：サンプリング周波数

音声信号が DOLBY D、DTS、AAC の時：リスニングモードとフォーマット

Dolby D :3/2.1

フォーマット*

リスニングモード　A　B C

＊フォーマット表示の意味は次のようになっています。

A：入力信号に含まれているフロントチャンネルの数を表します。
- **3**：左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- **2**：左フロント、右フロントスピーカーの 2 チャンネル
- **1**：モノラル（1 チャンネル）

B：入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数を表します。
- **2**：左サラウンド、右サラウンドスピーカーの 2 チャンネル
- **1**：モノラル（1 チャンネル）
- **0**：なし

C：入力信号に含まれている LFE（低域効果音：Low Frequency Effect）のあり / なしを表します。
- **1**：LFE あり（サブウーファーの効果が大きい）
- **表示なし**：LFE なし（サブウーファーの効果が小さい）

例えば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表わしています。

入力ソースの信号がAACで音声多重放送の場合：リスニングモードとフォーマット

AAC :1+1

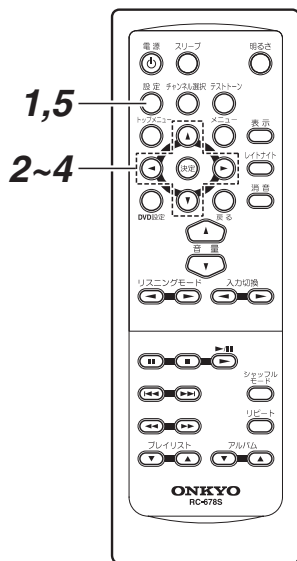
この場合、AACで音声多重放送であることを表わしています。

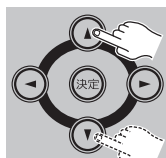
シアターディメンショナルを設定する

Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル）は前方のスピーカーのみでマルチチャンネル再生をお楽しみいただけます。
このモードは、左右それぞれの耳に届く音の特性を制御することによって実現していますので、もっともその効果を体験できる視聴位置（スイートスポット）が存在します。
最適なシアターディメンショナル効果を得るために、リスニングアングルの調整を行ってください。
リスニングアングルとは、視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度です。

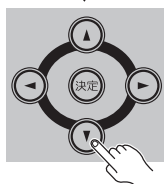
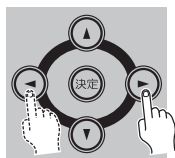
！ヒント

反射音が大きい部屋ですと、まれに期待した効果が得られない場合もありますので、できるだけ反射音の少ない環境にすることをおすすめします。

1

リモコンの設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを（くり返し）押して「T-D Setup（シアターディメンショナルセットアップ）」を選び、決定ボタンを押す

```
2.T-D Setup
```

3

スピーカーを5本接続している場合、「Front 5ch：No」が表示されますので、◀/▶ボタンで「Yes」または「No」を選び、▼ボタンを押す

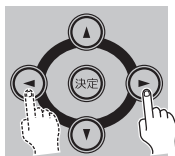
Yes：スピーカーを5本接続し、5本とも前方に置いてシアターディメンショナルを使用する場合に選びます。

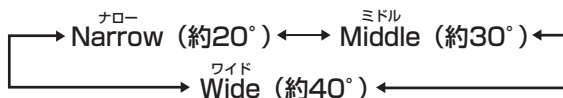
No：5本のスピーカーを通常の配置にしている場合は、この設定にしてください。

```
Front 5ch :No
```

ご注意

スピーカーのチャンネル数を5.1chに設定（☞23ページ）していない場合は、この項目は表示されません。次の手順へ進んでください。

4

◀/▶ボタンでリスニングアングルを設定する

左と右のスピーカーが離れているほど、視聴者との角度は広くなります。

5

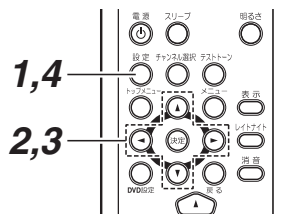
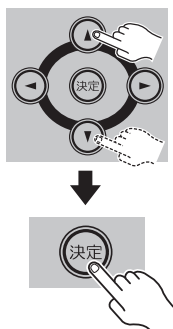
リモコンの設定ボタンを押し、元の表示に戻す

音響効果を調整する

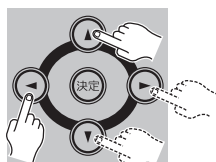
リスニングモードや接続した機器によって、音響効果をお好みに調整することができます。

1

リモコンの設定ボタンを押す

2

▲/▼ボタンを押して「3. Audio Adjust（オーディオ アジャスト）」を選び、決定ボタンを押す

3.Audio Adjust

3

▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンで調整する

▲/▼ボタンを押すと、下記の順で設定項目を選ぶことができます。

Multiplex（マルチプレックス） ⟷ Mono Input Ch（モノ インプットチャンネル）

Center Width（センターウィズス）（PL II Music（ミュージック）） ⟷ Dimension（ディメンション）（PL II Music） ⟷ Panorama（パノラマ）（PL II Music）

各項目について詳しくは、次ページをご覧ください。

4

リモコンの設定ボタンを押し、元の表示に戻す

Multiplex（マルチプレックス）の設定

Multiplex（マルチプレックス）

多重音声や多重言語の放送などで、音声や言語を選択します。
表示ボタンを3秒以上押して表示部に「1＋1」と表示されたら、音声多重放送です。

Main（メイン）：主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）
Sub（サブ）：副音声を出力します。
M/S：主音声と副音声の両方を出力します。

Mono Input Ch（モノ インプット チャンネル）の設定

Mono Input Ch（モノ インプット チャンネル）

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「Mono（モノ）」のリスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

L+R：左右チャンネルの信号両方を再生します。（お買い上げ時の設定）
L：左チャンネルの音声を再生します。
R：右チャンネルの音声を再生します。

PL II Music（プロロジックツーミュージック）の設定

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を「PL II Music」のリスニングモードで再生するときの設定をします。

Panorama（パノラマ）

前方の音場を横方向に広げることができます。
お買い上げ時は「Off（オフ）」に設定されています。

On（オン）：パノラマ効果をオンにします。
Off（オフ）：パノラマ効果をオフにします。

Dimension（ディメンション）

音場を前方または後方へ移動させることができます。
お買い上げ時は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、－3、－2、－1にすると前方へ、＋1、＋2、＋3にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

Center Width（センター ウイズス）

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic IIでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、仮想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。お買い上げ時の設定は「3」ですが、0～7の範囲で選択できます。

レイトナイト機能を使う（DOLBY DIGITALソフト再生時のみ）

ドルビーデジタル録音されたソフトを再生するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

リモコン

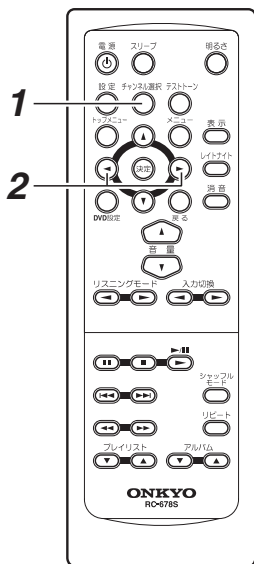
レイトナイトボタンを押す

押すたびに2段階のレイトナイトモード（High/Low）とOffを切り換えることができます。HighにするとLowよりさらに効果があります。

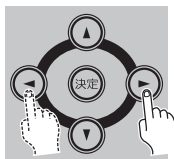
ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっていますので、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。
この設定は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

1

再生中にリモコンのチャンネル選択ボタンを押して、音量レベルを調整するスピーカーを選ぶ

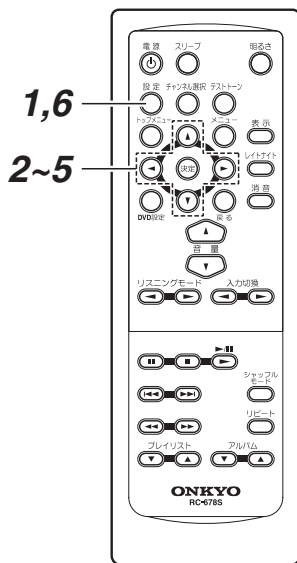
2

◀/▶ボタンを押して、各スピーカーの音量レベルを調整する

◀ボタンを押すと音量が下がり、▶ボタンを押すと上がります。−12dB～+12dBの範囲で設定できます。（サブウーファーは、−15dB～+12dBの範囲で設定できます。）調整後、何も操作せず5秒たつと元の表示に戻ります。

※調整した値を記憶させたい場合は、テストトーンボタンで記憶させることができます。（☞37ページ）

聞く位置からスピーカーまでの距離を設定する

センタースピーカーやサラウンドスピーカーを使用する場合は、聞く位置から設置したそれぞれのスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから聞く位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

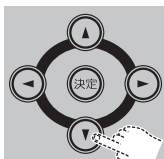
1

リモコンの設定ボタンを押す

表示部にスピーカー設定の表示が出ます。

```
1.Speaker Setup
```

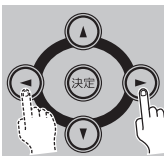
2

決定ボタンを押す

3

▼ボタンを押す

表示部にフロントスピーカーまでの距離が表示されます。

```
Front       :3.6m
```

4

◀/▶ボタンを押し、フロントスピーカーから聞く位置までの距離を設定する

◀ボタンを押すと数値が下がり、▶ボタンを押すと上がります。0.3m単位で9.0mまで設定できます。
実際の距離に近い数値を設定します。

次ページに続く

5

▲/▼ボタンを押して、スピーカーを切り換え、聞く位置からそれぞれのスピーカーまでの距離を設定する

ボタンを押すたびに、スピーカーの表示が下記のように切り換わります。
設定方法は、手順***4***と同じです。

Front（フロントスピーカー）
↓
Center（センタースピーカー）
↓
Surround（サラウンドスピーカー）
↓
Subwoofer（ サブウーファー）

！ヒント

- 左右のフロントスピーカーは、視聴位置から等距離になるように置いてください。
- 左右のサラウンドスピーカーは、視聴位置から等距離になるように置いてください。
- フロント、サラウンドの各スピーカーをどうしても左右等距離に置けないときは、距離の平均値を設定してください。

6

設定ボタンを押し、元の表示に戻す

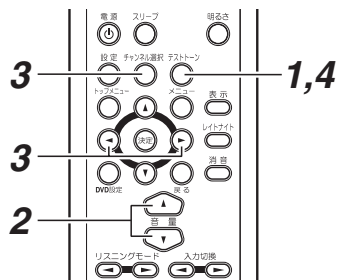
ご注意

- センタースピーカーとサブウーファーは、フロントスピーカーで設定した距離の±1.5mの範囲で設定できます。
- サラウンドスピーカーは、フロントスピーカーで設定した距離の−4.5mから＋1.5mの範囲で設定できます。
  たとえば、フロントスピーカーを6mに設定した場合、1.5mから7.5mの範囲で設定できます。

各スピーカーの音量レベルを設定する

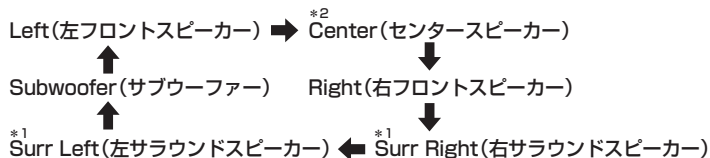
各スピーカーからの音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。

ご注意

テスト音は小さめなので、手順**2** でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、手順**3** が終了した後に音量▲/▼ボタンで元の音量に戻しておいてください。

1

リモコンのテストトーンボタンを押す

下記の順で各スピーカーから「ザー」というテスト音が出ます。

Left（左フロントスピーカー） ➡ ＊2 Center（センタースピーカー）
⬇
Right（右フロントスピーカー）
⬇
＊1 Surr Right（右サラウンドスピーカー） ⬅ ＊1 Surr Left（左サラウンドスピーカー）
⬆
Subwoofer（サブウーファー）
⬆
Left（左フロントスピーカー）

＊1は、23ページで設定したスピーカーのチャンネル数が5.1chのときに出力されます。

＊2は、23ページで設定したスピーカーのチャンネル数が3.1chまたは5.1chのときに出力されます。

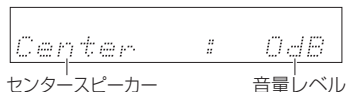
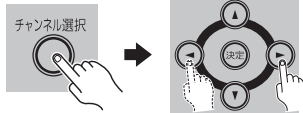
2

音量を調整する

テスト音がよく聞こえる音量に、音量▲/▼ボタンで調整してください。

- テスト音は何も操作しないでいると、自動的に次のスピーカーに移り、2秒ずつテスト音を出力します。

3

センタースピーカー　音量レベル

チャンネル選択ボタンを押してスピーカーを切り換え、◀/▶ボタンでスピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

◀ボタンを押すと音量が下がり、▶ボタンを押すと上がります。

- −12dB～＋12dBの範囲で設定できます。
- サブウーファーは−15dB～＋12dBの範囲で設定できます。

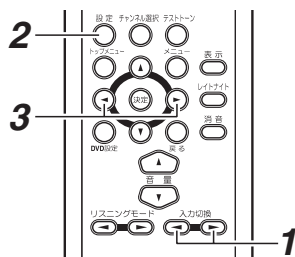
4

テストトーンボタンを押す

設定したスピーカーの音量レベルが記憶され、元の表示に戻ります。

デジタル入力モードをDTS、PCMに固定する

入力をDIGITAL1、DIGITAL2、DIGITAL3にしてお聞きになるとき、DTSやPCM信号を再生するとノイズや曲間の頭切れが気になる場合があります。このようなときは、DTSやPCMに固定してお聞きください。

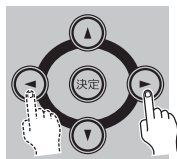
1

リモコンの入力切換◀/▶ボタンで設定する機器を選ぶ

DIGITAL1 DVD、DIGITAL2、DIGITAL3 TVのいずれかを選ぶことができます。

2

設定ボタンを約3秒間押し続ける

現在のデジタル入力モード「Auto（オート）」が表示されます。表示の後ろの（ ）は入力端子を表します。

3

「Auto（オート）」表示中（約3秒間）に◀/▶ボタンを（くり返し）押して、デジタル入力モードを選ぶ

押すたびに、下記のように表示が切り換わります。

→ Auto ←→ PCM ←→ DTS ←

Auto（オート）（お買い上げ時の設定）：

入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。

DTS：

AutoでDTS-CDを再生するときDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。DTS以外の信号の場合は、表示部のDTSインジケーターが点滅します。

PCM：

AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。PCM以外の信号の場合は、表示部のPCMインジケーターが点滅します。

ご注意

- DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。
- 3秒たつと元の表示に戻ります。設定ボタンまたは戻るボタンを押して元の表示に戻すこともできます。

困ったときは

困ったときは、次の内容をご確認ください。

電　源	参照ページ
電源が入らない	
● 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。	
● 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。	

音　声	
音声が出ない	
● スピーカーは正しく接続されていますか？しん線は本体の接続端子に接触していますか？	P13、15
● 音量が最小/0になっていませんか？	P24
● ミューティング（消音）機能が働いていませんか？ MUTING インジケーターが点滅している場合、ミューティング機能が働いていますので、解除してください。	P25
● 接続した再生機器側で出力設定を確認してください。	
● デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。	P38
エラーメッセージが出る	
● 操作中、表示部に表示されるメッセージは以下の内容を意味します。 **Not available：**ドルビーデジタル以外の入力信号のため、レイトナイト機能は設定できません。 **Muting On：**ミューティング（消音）機能がONになっているため設定できません。	
DTS、PCMのインジケーターが点滅している	
● デジタル入力モードを固定している場合、その固定されたフォーマット以外の信号が入力されています。設定を確認し、デジタル入力モードを「Auto」にしてください。	P38
センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない/サブウーファーから音が出ない	
● リスニングモードがSTEREOになっていませんか？	
● リスニングモードによっては、音声の出力されないスピーカーがあります。	
● 再生するソースによっては、ドルビープロロジックIIのリスニングモードは音が出にくい場合があります。 5.1ch対応のDVDソフトやBSデジタルの5.1ch放送は臨場感を表現する信号が含まれていることが多いですが、CDや一般の放送には含まれていないのが一般的ですので、他のリスニングモードをお選びください。	
● パソコンやゲーム機、DVDプレーヤーなどの接続した再生機器側で出力設定を確認してください。	
● スピーカーコードのしん線は本体の接続端子に触れていますか？	P13、15
音が良くない	
● スピーカーコードのプラス⊕/マイナス⊖が正しく接続されているかご確認ください。	P13、15
● 各スピーカーコードの距離設定、音量設定を行ってください。	P35、37
● ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。	P17
レコードプレーヤーの音が小さい	
レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。 内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。	
レコードプレーヤーが再生できない	
MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。	

〈音質について〉
電源投入後10～30分程度経過した方が音質は安定します。

困ったときは

参照ページ

レイトナイト機能が働かない
- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。 P33

DTS 信号について
- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS インジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS インジケーターが点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

リ モ コ ン

リモコンが働かない
- 電池の極性（⊕、⊖）が、表示通り正しく入っているか確認してください。 P8
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。
（種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。） P8
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？ P8
- リモコン受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？ P8

オンキヨー製 DVD プレーヤーや RI ドックの操作ができない
- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは正しく連動しません）
- リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。 P22

他機器との接続

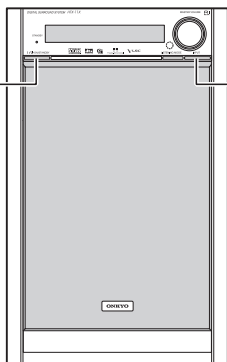
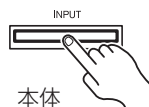
接続した機器の音が出ない
- 入力切り換えを確認してください。 P24
- オーディオ用光デジタルケーブルが折れ曲がったり損傷していませんか？
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、別売のフォノイコライザーを中継してください。

テレビの映像がにじむ
- テレビからスピーカーを離してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音やノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。
そのような時は、電源プラグを抜いて約 5 秒以上待ってから改めて電源プラグを入れてください。

！ヒント　修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときに、本機のマイコンをリセットすることで、トラブルが解消されることがあります。修理を依頼される前に、下記の手順でマイコンをリセットしてみてください。

マイコンのリセットについて

登録したレベル設定などをすべてお買い上げ時の設定に戻したいときは、以下の手順で本機のマイコンをリセットできます。

電源の入った状態で本体のINPUTボタンを押しながら、ON/STANDBYボタンを押す

表示部に「Clear」と表示され、本機の設定がお買い上げ時の状態に戻ります。

主な仕様

■ アンプ内蔵サブウーファーシステム（HTX-11XPAW）

形式	アンプ内蔵バスレフ型
アンプ部	
入力感度/インピーダンス	150mV/47kΩ（LINE1/LINE2）
実用最大出力	17W×5（1ch駆動, 1kHz・6Ω/JEITA） 35W(SW, 100Hz・12Ω/JEITA)
SN比	100dB
キャビネット内容積	7.1リットル
外形寸法(幅×高さ×奥行)	207×330×327mm (サランネット、ターミナル突起部含む)
質量	10.5kg
デジタル音声入出力端子	入力：OPTICAL3（DIGITAL1、2、3） 出力：0
アナログ音声入出力端子	入力：2（LINE1、LINE2） 出力：1（PRE OUT SL/SR）
使用スピーカー	16cm OMFコーン型
防磁設計	有
電源	AC100V（50/60Hz）
消費電力	66W

■ フロントスピーカーシステム（HTX-11XST）

形式	2ウエイ
定格インピーダンス	6Ω
最大入力	40W
定格感度レベル	80dB/W/m
定格周波数範囲	70Hz～50kHz
クロスオーバー周波数	9kHz
キャビネット内容積	1.1リットル
外形寸法(幅×高さ×奥行)	101×175×113mm (サランネット、ターミナル突起部含む)
質量	1.0kg
使用スピーカー	
ウーファー	8cm A-OMF コーンウーファー×1
ツイーター	2cm バランスドーム ツイーター×1
ターミナル	プッシュ式
防磁設計	有

仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 HTX-11X
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555　受付時間　10：00～18：00
（土·日·祝日·弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

G0906-2

SN 29345050A